

令和3年度

事業報告書

第9期

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月 31日

社会福祉法人 かなえ会

1. 法人本部

(1) 令和3年度の運営状況について

運営状況については、理事会を業務執行に関する意思決定機関とし、各事業所の経営及び運営方針を決定してきた。評議員会が運営に関わる重要事項の議決機関として最大限に機能を発揮することで、健全かつ公正な経営を行なっている。

今年度は役員改選があったが、不明な点は所轄庁へ尋ね、円滑かつ滞りなく遂行した。また、医療法人将優会との情報交換をはじめ、行政や宮崎県社会福祉協議会及び宮崎県老人福祉サービス協議会等が主催する研修会に積極的に参加し、情報の収集に努めた。社会福祉法人としての地域・社会における役割を認識し、使命と責任を持って努力し、継続して情報収集に努めた。

社会のニーズに応えるべく地域や関係機関・他事業所と共に地域医療介護ネットワークを形成し、常に情報を先取りすることで医療と介護の連携による安心・安全な街づくりを目指し、引き続き地域に根差した活動と安心・安全かつ安定した事業運営を実施することで、社会貢献・地域貢献していきたいと考える。

(2) 理事会の開催状況

回	開催年月日	出席者数	審議事項
第1回	令和3年5月22日 13:55~14:40 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事4名 監事2名	○令和2年度事業報告及び決算報告並びに監事監査報告について ○定時評議員会の招集について ○新役員候補者(案)の提出について ○評議員選任・解任委員の選任について ○評議員選任・解任委員会の招集について ○新評議員の選任候補者の推薦(案)について
書面表決	令和3年6月11日	書面表決	○新役員候補者(案)の撤回について ○施設長の選任(案)について ○新役員候補者(案)について
書面表決	令和3年6月17日	書面表決	○新理事長の選任について
第2回	令和4年3月12日 13:55~15:10 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事4名 監事1名	○令和3年度 第一次収支補正予算(案)について ○令和4年度 事業計画(案)について ○令和4年度 収支予算(案)について ○規程・規則(案)について

(3) 評議員会の開催状況

回	開催年月日	出席者数	報告事項・決議事項
第1回	令和3年6月12日 14:00~14:40 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	評議員7名 理事2名 監事2名	報告事項 ○招集手続きの変更について（経緯説明） ○令和2年度事業報告 決議事項 ○令和2年度計算書類等の承認について ○理事6名選任の件 ○監事2名選任の件

(4) 評議員 選任・解任委員会の開催

回	開催年月日	出席者数	報告事項・決議事項
第1回 評議員 選任・解任 委員会	令和3年6月12日 15:00~15:20 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	委員3名 [監事1名] 職員1名 [外部委員1名]	決議事項 ○評議員の選任について

(5) 監事監査の実施

監事監査日時	令和3年5月19日 14:00~15:00
監事監査項目	○理事の業務執行状況 ○法人の財産管理状況 ○法人及び施設の業務執行状況 ○法人及び施設の会計状況
結果	指摘事項なし

(6) 職員の動向

【特別養護老人ホームかなえ・短期入所生活介護事業所かなえ・ケアライフかなえ】

職種	R3.4.1 現在 在籍者数	令和3年度		R4.3.31 現在 在籍者数
		入職(異動)者数	退職(異動)者数	
施設長 (うち 職種変更)	1名	1名 (1名)	1名	1名
事務職員	2名	2名	2名	2名
正職員 (うち 職種変更)	2名	0名	1名 (1名)	1名
パート (うち 将優会へ異動)	0名	2名	1名 (1名)	1名
介護支援専門員 (うち 副施設長兼務)	0名	1名 (1名)	0名	1名 (1名)
生活相談員 (うち 介護支援専門員兼務)	2名 (1名)	1名 (0名)	2名 (1名)	1名 (0名)
管理栄養士 (うち 将優会より出向) (うち 職種変更)	2名 (1名)	3名 (0名) (0名)	3名 (1名) 出向期間満了 (1名) 調理員へ変更	2名 (0名) (0名)
調理員	3名	8名	3名	6名
正職員 (うち 将優会より異動) (うち 管理栄養士兼務)	3名 (2名)	5名 (2名) (1名)	2名 (0名) (1名)	4名 (2名) (0名)
パート (うち 産休明け復職)	0名	3名 (1名)	1名 (1名)	2名 (0名)
機能訓練指導員 (うち 将優会より異動)	1名	1名 (1名)	0名	2名
看護職員	2名	1名	0名	3名
介護職員 (うち 将優会より異動) (うち よりせいより異動)	26名	14名 (1名) (2名)	10名 (0名) (0名)	30名 (1名) (2名)
正職員 (うち 将優会より異動) (うち よりせいより異動)	16名	6名 (1名) (1名)	4名 (0名) (0名)	18名 (1名) (1名)
パート (うち よりせいより異動)	10名	8名 (1名)	6名	12名 (1名)
介護支援専門員 (ケアライフかなえ)	5名	0名	0名	5名
合計	42名	32名	21名	53名

【住宅型有料老人ホームよりそい・訪問介護よりそい・通所介護よりそい】

職種	R3.4.1 現在 在籍者数	令和3年度		R4.3.31 現在 在籍者数
		入職(異動)者数	退職(異動)者数	
統括管理者 (うち 管理者兼務) (うち かなえへ異動)	1名 (1名)	0名 (0名)	1名 (0名) (1名)	0名 (0名) (0名)
管理者 (うち ホーム長兼務) (うち 生活相談員兼務)	1名 (0名) (1名)	1名 (1名) (0名)	0名 (0名) (0名)	2名 (1名) (1名)
事務職員	1名	0名	1名	0名
正職員	0名	0名	0名	0名
パート	1名	0名	1名	0名
生活相談員 (うち 将優会より異動) (うち 介護職員兼務) (うち 職種変更)	2名 (1名)	2名 (1名) (0名) (0名)	3名 (0名) (2名) (1名)	1名 (0名) (1名) (1名)
正職員 (うち 将優会より異動) (うち 介護職員兼務) (うち 職種変更)	1名 (1名)	2名 (1名)	2名 (0名) (1名) (1名)	1名 (1名) (0名) (0名)
パート (うち 介護職員兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	1名 (1名)	0名 (0名)
機能訓練指導員	1名	0名	0名	1名
正職員	1名	0名	0名	1名
看護職員 (うち 将優会より異動) (うち 機能訓練指導員兼務) (うち 生活相談員兼務)	3名 (1名) (1名)	2名 (1名) (1名)	3名 (1名)	2名 (1名) (1名)
正職員 (うち 機能訓練指導員兼務)	2名 (1名)	1名 (1名)	2名 (0名)	1名 (1名)
パート (うち 機能訓練指導員兼務) (うち 生活相談員兼務)	1名 (1名) (0名)	1名 (0名) (1名)	1名 (1名) (0名)	1名 (0名) (1名)
介護職員 (うち 将優会より異動)	7名	4名 (1名)	1名 (0名)	10名 (1名)
正職員 (うち 職名変更)	6名	3名 (1名)	1名 (0名)	8名 (1名)
パート (うち 職名変更)	1名	1名 (1名)	0名	2名 (1名)
厨房	3名	1名	0名	4名
合計	19名	10名	9名	20名

2. 特別養護老人ホーム かなえ（短期入所生活介護事業所 かなえ併設）

（1）令和3年度重点目標の達成状況

1. 入居者一人ひとりが、これまでの生活歴や趣味・嗜好などを取り入れた暮らしを安心して継続できるよう、入居者・ご家族の想いやこだわりなどの意向を汲み取り、その方らしい暮らしの継続を支援していきます。

→入居者の暮らしが入居前と連続したものとなるよう、嗜好や生活習慣などをご本人・ご家族から情報収集し、好きな食べ物や設えに用いる物品、日課にしていた事など暮らしに馴染みのある物の提供や日課を取り入れるなど、生きがいのある暮らしが送れるよう努めた。

2. 住み慣れた地域で安心して暮らし、自分らしい人生の最期を迎えられるよう多職種及び医師や協力医療機関等と密接な連携を図り、満足度の高い施設サービスの提供を目指します。

→最期を迎えるにあたり、その時の心身状態に合わせたケア内容について、ご本人やご家族の想いに寄り添い、多職種で話し合いを重ねていくことができた。また、配置医師とも密な連携を図ることで、ご家族からの感謝の声を多く頂くことができた。コロナ過で限られた中ではあったが、ご本人とご家族が安らかな最期の時間を過ごしていただけるよう、想いを最大限に汲み取り真心のあるケアを提供していきたい。

3. 自立支援に向けて日常生活の中での機能訓練や、排泄の見直しなどを常に行うことで、入居者の残存機能を活かし、自己にて出来ることへの喜びを感じていただけるよう「熱意・行動・能力」の三位一体でケアの質向上に努めます。

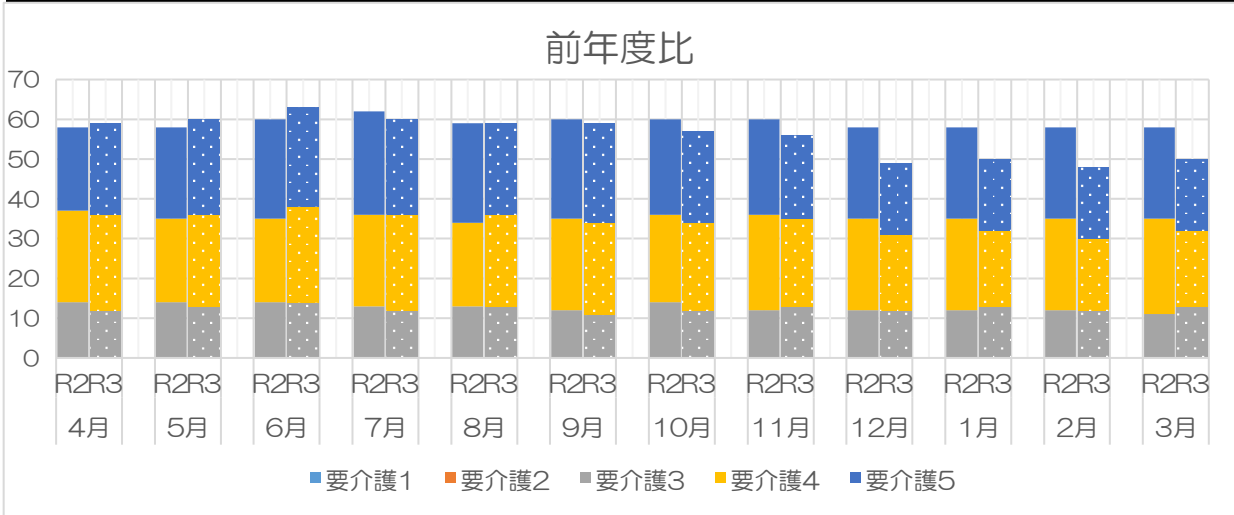
→カンファレンスや委員会を通し、安心・安全に行える様に入居者の状態に合わせた使用物品の時間、ケアの方法など検討を重ねていくことができた。また、ケアの質の向上を目指し研修の計画を行っていたが、新型コロナウイルス感染対策の為、外部研修は中止が多く施設内勉強会を中心に実施した。研修内容の中で、オムツの種類の検討を行ったことで排泄介助への新たな取り組みや意識の向上を図ることができた。

(2) 事業実績

① 利用人数

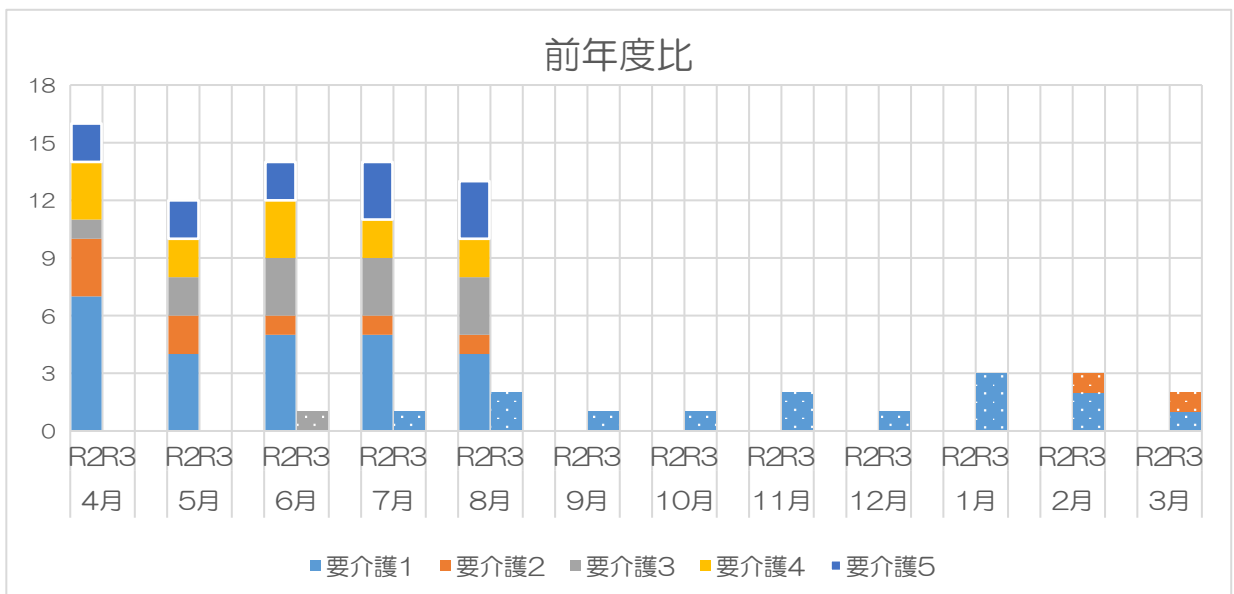
【特別養護老人ホーム】(請求実数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	12	13	14	12	13	11	12	13	12	13	12	13
要介護4	24	23	24	24	23	23	22	22	19	19	18	19
要介護5	23	24	25	24	23	25	23	21	18	18	18	18
合計	59	60	63	60	59	59	57	56	49	50	48	50



【短期入所生活介護事業所】(実人数)

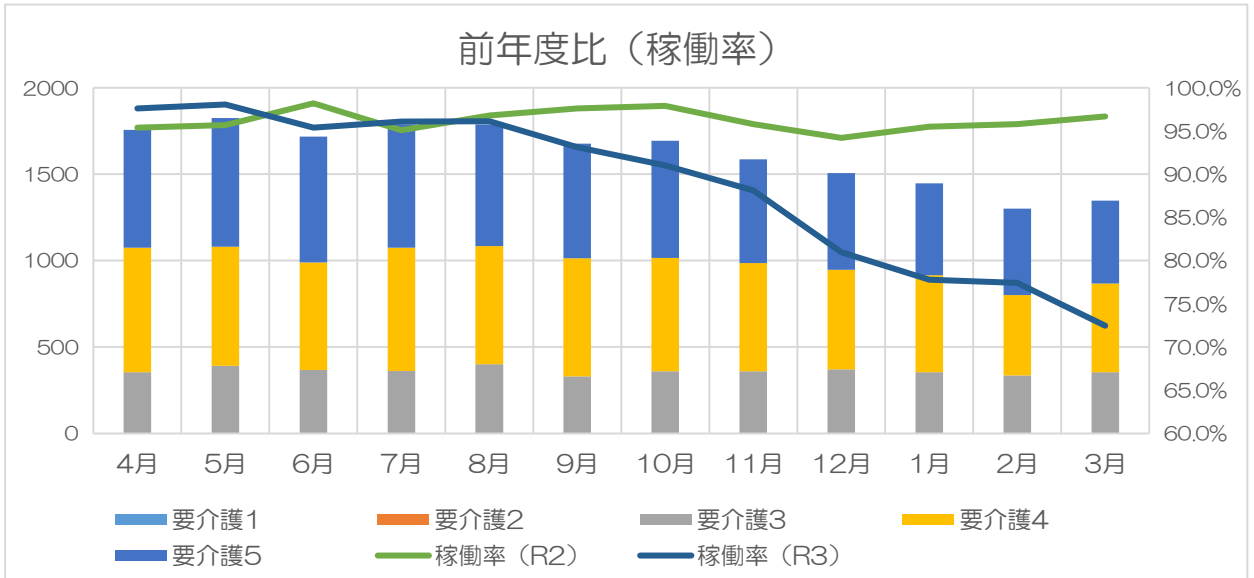
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	1	2	1	1	2	1	3	2	1
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
要介護3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	1	2	1	1	2	1	3	3	2



② 入居延日数及び稼働率

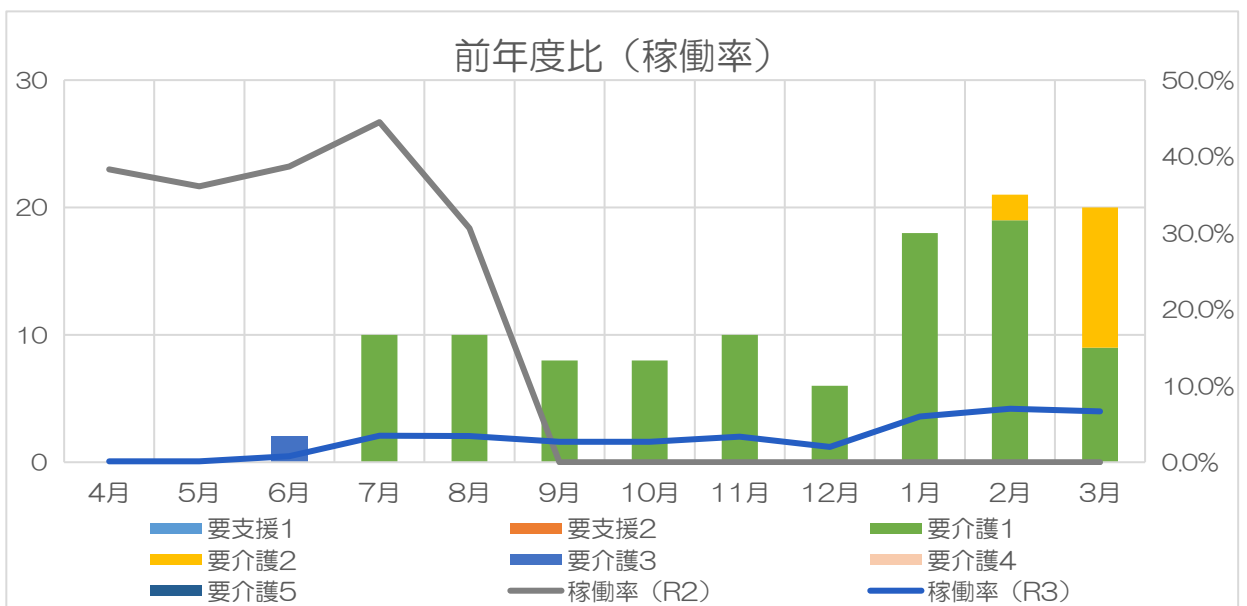
【特別養護老人ホーム】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	355	391	368	362	401	330	361	360	372	354	336	354
要介護4	720	689	621	713	684	684	654	626	576	561	464	513
要介護5	682	744	728	712	703	662	678	600	558	532	501	481
稼働率	97.6%	98.1%	95.4%	96.1%	96.1%	93.1%	91.0%	88.1%	81.0%	77.8%	77.4%	72.5%



【短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	10	10	8	8	10	6	18	19	9
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
要介護3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働率	0.0%	0.0%	0.7%	3.3%	3.3%	2.7%	2.7%	3.3%	2.0%	6.0%	7.0%	6.7%



(3) 入居者の状況

① 入居者の動向（入居前の居所）

月	在宅	介護施設			医療機関	有料老人ホーム	計
		特養	老健	グループホーム			
4月	0	0	0	0	1	0	1
5月	0	0	0	0	1	0	1
6月	0	2	0	2	1	1	4
7月	0	0	0	0	1	0	1
8月	0	0	0	0	0	1	1
9月	1	0	0	0	1	0	2
10月	0	0	0	0	1	0	1
11月	0	0	0	0	1	1	2
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	1	0	1
2月	0	1	0	1	0	0	1
3月	0	0	0	0	2	2	4
計	1	3	0	3	10	5	19

② 退居者の動向（退居後の状況）

月	在宅復帰	介護施設 入所	医療機関			有料老人ホーム 入所	死亡	計
			特養	老健	グループホーム			
4月	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	1	1
6月	0	0	0	0	0	0	4	4
7月	0	0	0	0	0	1	1	2
8月	0	0	0	0	0	0	2	2
9月	0	0	0	0	0	0	3	3
10月	0	0	0	0	0	0	3	3
11月	0	0	0	0	0	0	7	7
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	1	2	3
2月	0	0	0	0	0	0	2	2
3月	1	0	0	0	0	0	4	5
計	1	0	0	0	0	2	29	32

(4) 職種別活動報告

生活相談員

【目標の達成状況】

1. **利用者一人ひとりが、当施設でその人らしく過ごせるよう、また当施設入居前と連続した生活になるように、利用者やご家族と一緒に考えていきます。**

→今年度入居された方は19名で、医療機関からの入居が10名と最多であり、次いで有料老人ホームからの入居が5名、介護老人保健施設からの入居が3名、自宅からの入居が1名であった。新型コロナウイルス感染症の対策として面会を制限せざるを得ない状況が継続している。その中で入居に踏み切るご本人・ご家族が抱える不安を少しでも軽減するために、入居前の生活状況をこまやかに情報収集し、多職種で共有することで、当施設でのサービス利用が安心して行えるように支援していく必要がある。相談窓口としての役割の重要性を自覚し、今後も支援を続けていきたい。

2. **利用者主体の質の高いサービス提供ができるよう、多角的な視点で物事を捉え、他職種、関係機関、外部事業所と情報を共有し連携を行い、また介護保険制度をはじめとする制度やサービス等の社会資源を活用します。**

→入居前の生活歴、家族歴、意向の把握に努め多職種で情報共有することで、施設入居後の支援内容について多角的な視点で検討していくことができた。今後も、サービスの質の担保を行うため、他職種からの意見も柔軟に受け入れ、利用者主体の支援の実現に向けて、臨機応変に対応できるよう努めていきたい。

【年間活動状況及び評価】

1. **申し込みや事前面談の時点から生活歴や家族背景、生活環境等を適切に情報収集します。ご家族にも協力を得ながら、可能な限り楽しみや役割を持って暮らし続けられるように支援します。**

→新型コロナウイルス感染症対策のために、施設内の見学を控えてもらっていることから、パンフレットを活用しながら入居後の生活がイメージしやすいように丁寧に説明を行い、入居に対する不安を少しでも取り除くように対応した。また、職員体制や機能訓練内容、健康管理や協力医療機関との関わり方等を説明するとともに、活用できる制度等の情報提供や申請の支援を行うなど、利用者の心身状況や意向等に合わせ、どの情報が一番必要なのかを把握しながら説明するよう努めた。

2. **利用者やご家族からの情報は、関係する全ての職種や医療機関等とも共有し、サービスの質の向上を図ります。住み慣れた地域での暮らしと連続したものになるように、行政機関や各地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等とも連携を密にし、社会資源の活用もしていきます。**

→適切な情報収集を心掛け、その情報を多職種で共有し、サービスの質の向上に努めた。中でも、施設内での情報共有は、可能な限り迅速・的確に行っていく事が重要であると強く考えさせられる場面が多々あった。今後も、チームケアの推進を図るために、力を入れて取り組んでいきたい。また、住み慣れた地域での暮らしの継続の為に、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等からの情報提供が重要であるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、対面で連携し合う機会をなかなか得られない状況であった。状況に合わせた連携の仕方を確立し、今後もサービスの質の向上を目指していきたい。

3. **新型コロナウイルス感染症や大規模災害等の緊急事態においても事業が継続できるよう、他職種、関係機関、外部事業所、さらに地域等とも連携していきます。**

→現在、事業継続計画作成に関して多職種で連携しながら行っている。可能な限り外部事業所や地域とも連携を図り、実効性のある計画となるよう作成していきたい。

看護

【目標の達成状況】

入居者一人ひとりの健康状態を把握し、施設での生活を継続できるように他職種と連携を図りながらケアに努めます。

→事前カンファレンス時に他職種と会議することで、入居者様の問題点や改善点などを協議することができ、ケアにつなげることができた。

新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、面会制限が続いたことも影響してか、体調を崩される入居者様も多かったが、その都度情報共有しご家族の不安や心配を最小限にすることができたと考える。

【年間活動状況及び評価】

1. 配置医師及び医療関係との連携を図りながら、常に入居者の健康状態に注意し、病状変化の早期発見に努めます。

→配置医師、医療機関へは、9時に連絡書報告の他口頭での報告を行い、16時には連絡票にて連絡・相談を行ってきた。夜間帯の病状急変時にはオンコール体制にて、すぐに対応できるよう、介護・看護の連絡を密に行い、医療機関への依頼もスムーズに行う事が出来た。

医療機関受診件数	695件	(入居時検診・定期健診含む)
協力歯科医療機関往診件数	805件	
他医療機関受診件数	5件	
他医療機関入院件数	3件	

2. 介護職員が行う医療的ケアにおいては、配置医師と連携のもと、入居者の症状等状況を把握、判断し手技の指導・助言を行い、安全な実施が行えるように支援します。

→医療的ケアを必要とする入居者に対し、介護福祉士認定特定行為業務従事者が、喀痰吸引・胃瘻による経管栄養注入を行うための手技の確認を定期的実施し、事故・アクシデントの発生はなかった。

3. 看取りについては、入居者及びご家族の意向を十分に尊重し満足した最期を迎えられるように支援します。

→今年度は29名の看取り介護を行った。ご本人やご家族のご意向をくみ取り、苦痛なく最期を迎えられるように、多職種で話し合いを行い、ご本人・ご家族との関わりを検討し支援してきた。

前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため面会制限を行っていたため、満足のいく看取りにはならなかった面もあったが、その都度検討し配慮することで、退居されるときは感謝の言葉も聞くことができた。今後もご本人とご家族が安心して最期を迎えられるよう支援していきたい。

4. 感染対策においては、地域での感染症の流行状況を把握し、流行時は迅速な対応に努めます。

新型コロナウイルス感染症発生時に備え、多職種で情報共有し迅速に対応します。

→宮崎県感染症週報や協力医療機関、近隣の状況から感染症の発生状況などを確認し、状況に合わせ医療法人と共通理解のもと行動自粛や面会制限など行ってきた。

職員は出勤前、出勤時、退勤時に検温する、体調不良時は出勤しない、させないを周知し、標準予防策を徹底することで、現在までにインフルエンザ・ノロウイルスにおいても、感染者を一人も出すことなく経過している。今後も引き続き感染症対策を継続していく必要がある。

5. 褥瘡を作らないケアの取り組み、チームケアの一員として専門性を発揮し施設サービスの向上に取り組みます。

→LIFEの導入に伴い褥瘡予防計画を作成、3ヶ月毎の評価を行いリスクの程度を知ることができた。また、事前カンファレンス時に多職種で評価を行い情報共有をし、改善策を協議した。

また、多職種でウォーキングカンファレンスを行うことで、ポジショニングの見直しや除圧の必要性、褥瘡を作らない取り組みを再認識することができた。

介護（特別養護老人ホーム）

【目標の達成状況】

1. 入居者が、その方らしく生活出来るように、想いを尊し使い慣れた物や馴染みの物を取り入れ、今までの暮らしと連続したものとなるように支援していきます。
→入居者の生活歴をもとに、ご本人やご家族からの情報を聞き取り趣味や嗜好、習慣等を取り入れ、落ち着くことができる生活空間を提供できるよう居室の設えを整えることができた。
2. 入居者の個性を尊重し安心して穏やかな生活を送れるように、施設内外での研修に参加しケアの質の向上に努めます。
→ケアの質の向上を目指し、施設内研修の開催企画や施設外での研修参加計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、研修の中止やオンラインでの開催が多かった。今年度の施設内研修は、委員会を中心に資料を作成し、レポートで振り返りを行い質の向上に努めた。

【年間活動状況及び評価】

1. 他職種と情報共有を行い密な連携を図ることで、その人の趣味や特技を活かし生きがいを持てるような暮らしを提供していきます。また、ユニットミーティングや多職種での会議を通して、その方に合わせたケアの提供を行うことで入居者やご家族の気持ちに寄り添い、穏やかな生活を送ることができるよう支援していきます。
→新型コロナウイルス感染予防のため、クラブ活動や全体での行事の実施は自粛し、各フロアでの活動を中心に行った。夏祭りや敬老会、クリスマス会など各フロア個性のある活動や雰囲気を入居者の笑顔も多く、参加意欲が高まりほぼ全員参加する事ができた。面会制限が長期化しているため、定期的にご家族に対して電話で様子を伝えたり、写真を送る等近況報告を行い、少しでも安心していただけるよう支援を行った。
2. 施設内外での勉強会や研修会に積極的に参加し、多職種での意見交換を行うことで互いを高め合えるような関係を築けるように努めます。また、専門的な知識や技術を学び、入居者が安心して生活出来るようケアの質の向上に努めます。
→新型コロナウイルス感染予防のため、施設外での研修や集合研修は中止になる事が多かったが、カンファレンスや委員会場で意見を出し合う事ができた。さらに、多職種が入居者のケアに直接関わる事があることで、実践しながら意見交換をしケアの見直しを行い、具体的な検討や改善につなげることができた。

介護（短期入所生活介護事業所）

【目標の達成状況】

1. 利用者が住み慣れた地域で在宅での生活が継続するために、ご家族や担当ケアマネジャー、関係機関と連携を密にし、安心して過ごせるように支援します。
→住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう、ご家族や担当ケアマネジャー、関係事業所から情報収集や情報の共有を行いながら支援してきた。利用開始時は、ご家族から自宅での生活状況や意向を聞くことで、ご本人の状態を把握し落ち着いた環境を提供できるように努めた。また、利用終了後もご本人やご家族からの意見を汲み取ることにより、より良いケアの向上に努めた。
2. 自宅と施設生活の違いに戸惑わないよう、利用者やご家族の生活背景及び利用目的を多職種で共有し不安のない生活をサポートします。
→利用者やご家族の置かれている状況や在宅生活での課題などを理解し共有することで、短期入所サービス利用の必要性の把握に努め、ご家族の介護負担軽減につながられるようサポートができた。

【年間活動状況及び評価】

1. 住み慣れた地域での生活を継続する為に
 - (1) 利用者、ご家族の要望を聞きながら安心して住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、利用者の生活歴や心身状態、家族背景を理解し多職種で共有しサポートします。
 - (2) 緊急時に適切な対応ができるよう、ケアマネジャーと連携を行い利用者の心身の状態や病歴などの情報共有を行います。
 - (3) 利用前はご家族、担当ケアマネジャーから自宅での生活リズムや生活環境の情報収集を行い、利用者が自宅での生活との違いに不安や戸惑いがないよう準備いたします。
→新型コロナウイルス感染拡大に伴い休止する事業所が多い中、当事業所への利用依頼が複数件あった。利用前の生活状況と大きく変化しないように、生活歴や心身状態、家族背景及び意向をこまやかに情報収集し、関係する事業所とも密に連絡を取り情報共有に努めた。その為、持病を持ちながらも在宅での生活をされている方に対し、多職種と連携することで身体状況の変化にもいち早く対応が行えたり、今後のケア内容について意向確認を行い寄り添ったケアができたと感じる。
新型コロナウイルス感染防止に伴い休止を余儀なくされている状況もあったが6月より再開した。
住み慣れた地域で在宅での生活を維持するためには、短期入所は欠かせないサービスであると改めて実感した。今後も万全な感染対策を講じ、安全な環境を提供できるよう取り組んでいきたい。

管理栄養士

【目標の達成状況】

1. 入居者一人ひとりの身体機能や病歴等に配慮した食事提供を行い、健やかな暮らしの実現に向けて支援します。

→定期的に入居者の現状を把握し、一人ひとりに合わせた食事提供や評価（アセスメント・モニタリング）をすることで、健康状態・栄養状態の維持を図り、健やかな暮らしの支援に繋げることができた。

2. 季節のメニューや行事食・イベント食等、日常とは異なる食事を企画し、日々の変化や楽しみを感じて頂ける食事サービスを提供します。

→行事食や誕生日メニュー、旬の食材を使用した料理の提供等、季節感があり、楽しみや喜びを感じて頂けるような食事提供を行った。

1. 健康状態や栄養状態を維持するために

(1) 栄養状態に関する評価（病歴、体重、食事摂取量等）を基に課題を把握し、栄養状態の改善に向けた計画を作成します。作成後は定期的な評価・見直しを行い、食事変更やケアの改善に繋がります。

→栄養状態の評価（体重測定値、食事摂取量の変化、食事摂取の様子等）を実施し、抽出した課題に基づいた食事内容を検討し、食事提供を行うことができた（栄養ケアマネジメント）。

栄養ケアマネジメント実施人数：76名（前年度比 4名増）

(2) 病歴・検査データ・体重等により嘱託医師が、食事療法が必要と判断した方には、療養食（例減塩食）の提供を行います。

→入居時には、協力医療機関にて検査を行い、その結果から医師が必要と判断した入居者へ療養食の提供を行った。定期健診時には最新の結果にて見直しを行い、入居者の状態に合わせた食事提供ができた。療養食提供人数：69名（前年度比 14名増）

(3) 嚥下機能が低下した方に対して、歯科医師・歯科衛生士・多職種と連携し、口腔内の状態、咀嚼・嚥下機能、食事形態等を総合的に評価しケアに繋げることで『口から食べる』ことを支援します。

→日常的な摂取状況を把握する為、ミールラウンドにて食事摂取時の様子を観察し、多職種で共有を図った。食事時の座位や頸部の角度、介助時の一口量やペース等、評価の内容が充実し、個々人の状態に合わせた安全な食事提供ができた。

『口から食べる』ことの支援（経口摂取継続の取組み）：3名（前年度 同）

2. 楽しみのある食事を支援するために

季節の食材を使用した食事、季節の行事食やイベント食、新メニューの立案等、バラエティに富んだ献立を提供することで、食事に楽しみを持って頂きます。

→前年度までは食事提供に関する業務を委託していたが、今年度より当施設にて行っている。

ミールラウンドや嗜好調査等を通して、入居者様の意向に寄り添った食事を提供するとともに、季節の行事にちなんだ食事や、季節の食材を使用したメニューを献立に取り入れることで、四季の変化を感じて頂けるよう工夫した。また、毎月『誕生日メニュー』を取り入れており、イベントではお花見や敬老会、クリスマス会を企画・実施し、マンネリ化しないように心がけた。

今後も継続し、季節感のあるバラエティに富んだメニューを増やしていきたい。

3. 新型コロナウイルス感染症や大規模災害等の緊急事態に対応できる体制をつくります。非常用備蓄食品の整備、多職種での情報の共有を行います。

→感染症や災害発生時のライフライン停止の影響による対応の見直しを行い、備蓄食品の購入や保管場所の設定、献立等のマニュアル作成を行った。今後は保管場所・使用方法等の周知における多職種での情報共有を徹底していく。

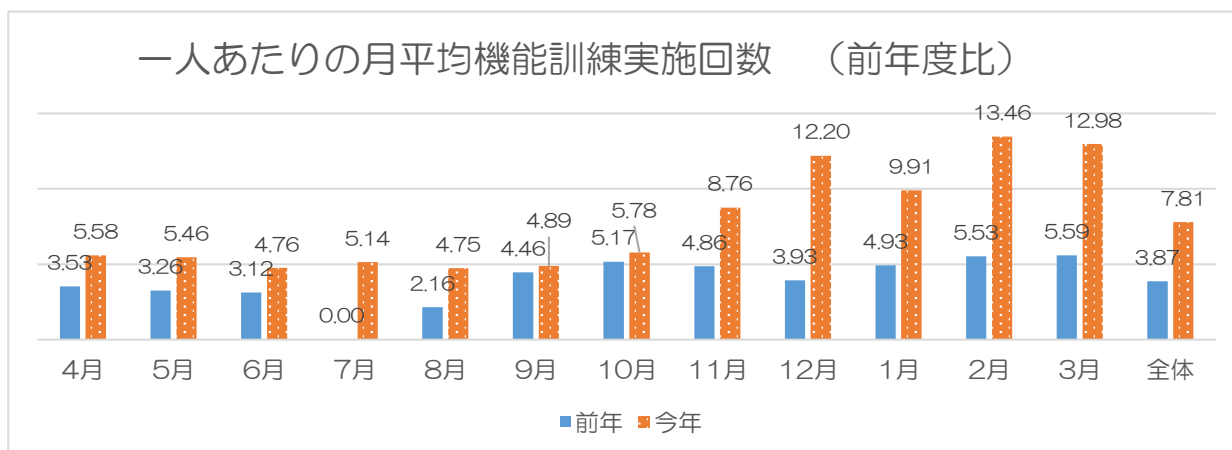
機能訓練指導員

【目標の達成状況】

- 入居者一人ひとりがその人らしく生活するために必要な身体や心の健康そして住空間や福祉用具の環境を整え、楽しみや生きがいを感じて頂けるよう他職種と協働し寄り添ったサービスを提供します。
→機能訓練指導員が入居者と同じ居住空間で過ごし、そこで携わる様々な職員と関わることで、入居者の些細な変化に、他職種協働で対応することができた。また、日々の些細な疑問を協議し合い、入居者一人ひとりに寄り添ったサービスが提供できた。

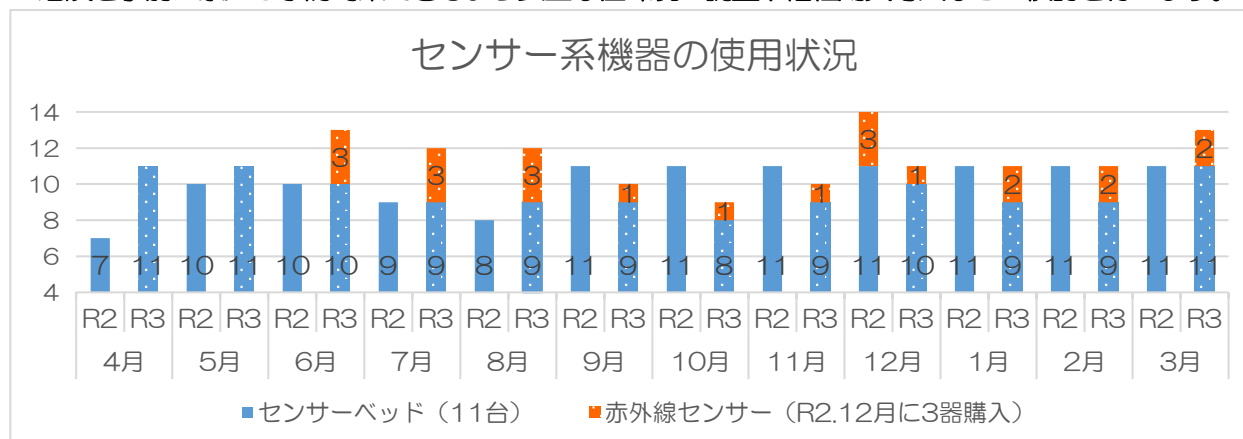
【年間活動状況及び評価】

- 入居者一人ひとりがその人らしい生活を送るために
 - 一人ひとりの身体と心の状態を継続的に分析し適切な援助をすることで安心・安全な生活を送るお手伝いをします。



→11月から機能訓練指導員が増員、2名体制となった。一人あたりの機能訓練回数が増えた。他職種の職員と連携を即座に行い、入居者の心身の変化に柔軟に対応することができ、一連の流れがスムーズに行えた。

- 認知機能の衰えにより思わぬ場所や場面での怪我や事故が増えてくることが予想されます。それらの危険を事前に察知し予防対策できるよう安全な住環境の調整や福祉用具導入などの検討を行います。

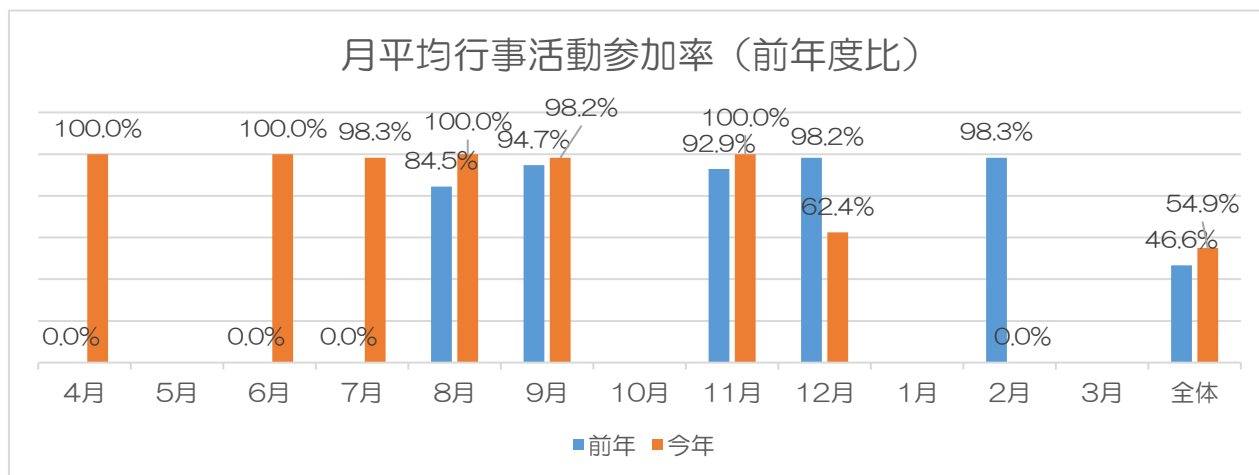


※センサーベッドの台数…11台

※超音波赤外線ナースコールセンサーの個数…3器

→突発的な怪我や事故を防ぐため、センサーベッドや超音波赤外線ナースコールセンサーといった福祉用具を用い、安全な住環境を提供した。選定するにあたり、個別機能訓練を通しての評価や、日常生活の聞き取り、医療面での助言を受け、ご家族からの意向を確認のうえ決定した。

(3) 楽しみの提供や生きがいづくりの一環として、ユニットやフロアごとでの行事を行事委員会と協働で企画開催します。季節に沿った文化的な活動などを通して、他入居者との場の共有を図れたり、会話や活動による心的距離を縮めたりできるような機会づくりをしていきます。



→行事委員会と一緒に、定期的にユニットやフロア単位での行事を提供することができた。

介護支援専門員

【目標の達成状況】

1. **入居者一人ひとりのその人らしさを追求し、想いの実現が図れ当施設での生活が安心・安全で満足度の高いものとなるようサポートします。**
→新型コロナウイルス感染症の渦中であり、昨年度に引き続き日常生活の感染対策徹底や面会制限を強いられる状況であった。入居者、ご家族ともに不安やもどかしさが募り、強く感情表出される方も少なくなかった。それぞれの想いをできるだけ汲み取り、課題の解決が少しでもできるように多職種で検討を重ね、できる範囲で適切な支援を行うよう努めた。
2. **施設内外における多職種連携の要としての役割を自覚し、自己研鑽を重ね、より質の高いサービス提供が可能となるよう努めます。**
→4月に介護報酬改定があり、質の高いサービス提供に向け、多職種で連携し「LIFE」への情報提供など新たな取り組みを始めることができた。施設内外の研修が中止となったり、資料配布のみとなることもしばしばあったため、最新の情報が収集し辛い状況ではあったが、関係職種や外部事業所と情報交換、共有をこまめに行うよう心掛けた。

【年間活動状況及び評価】

1. **入居者一人ひとりの生活状況や心身状態はもちろんのこと、生活歴や家族背景、趣味・嗜好をこまやかに情報収集し、入居者やご家族の想いに寄り添い、自立した自分らしい生活が継続できるよう施設サービス計画を策定していきます。**
→新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も入居前の訪問調査の同席が困難であったり、面談の機会が限られる状況であった。入居者が目標を持って施設生活を続けていけるように、一つでも多くの情報を収集し施設サービス計画策定を行うため、対面以外の連絡手段を活用し臨機応変に対応するよう取り組んだ。担当者会議も感染状況をその都度確認しながら、開催場所の環境を整え、人数制限等の対策を講じて実施することができた。
2. **日々変化する利用者の状態把握に努め、過不足なく適切なケアの提供がなされるよう他職種及び協力医療機関をはじめとする外部関係機関とも密に情報共有を図り、計画の評価や見直しを行います。**
→個別のケース検討を3ヶ月に1回行うことで、入居者一人ひとりの心身状態の変化の把握や、他職種や協力医療機関とも情報共有が行えている。様々な専門職が集まることで様々な視点で検討が行えるため、施設サービス計画内容の幅も広がると感じている。今後も、高齢者の特性を踏まえ状態変化を速やかに察知し、適切なケアに繋がられるよう計画内容の評価・見直しを行っていきたい。
3. **新型コロナウイルス等の感染症対策や大規模災害にも対応できる体制整備に努め、適宜必要な情報発信を行うことで、入居者やご家族の不安軽減を図り、信頼関係をより強固なものにしていきます。**
→感染状況が比較的落ち着いている時期は、短時間でも面会が行えるように多職種で検討し、対応した。ご家族からも「安心した」という言葉を多くいただくことができた。画一的な対応になりがちではあるが、入居者やご家族の想いに向き合い、できる限りの支援を行うことで、入居者・ご家族との信頼関係の構築に努めていきたい。
4. **施設内外の研修へ積極的に参加し、介護支援専門員としての質の向上に努めます。**
→社会福祉研修センターや介護支援専門員協会の研修へ参加することができた。集合研修ではなく、リモート研修へ変更となり当初は戸惑いもあったが、回を重ねるごとに発言もスムーズに行えるようになった。研修終了後には報告書を作成し、情報伝達を行った。今後も、積極的に研修参加を行い、知識や技術を増やし、自己の成長に繋げていきたい。

(5) 委員会活動報告

入居判定委員会	
【活動目標の評価】	
<p>1. 当施設における「入居判定指針」に基づき入居申込者の介護の必要の程度及び家族等の状況を勘案し、施設サービスを受ける必要性の高さにより入居の順位を確定する。</p> <p>→今年度は、19名の入居判定を実施した。新型コロナウイルス感染症状況が長期化している影響もあり、昨年度同様、入居申込者が減少傾向にあった。そのような状況の中でも、身体状況の急変や認知機能面の悪化により入院加療を要し、在宅生活の継続が困難となる事例が複数あり、「入居判定指針」に基づき入居申込者の介護の必要の程度及び家族等の状況を勘案し、施設サービスを受ける必要性を見極め、入居の順位を確定することができた。今後も、新型コロナウイルス感染症の感染状況を含め、要介護者を取り巻く環境や施策の動向に注視しながら、適切な入居判定を行っていききたい。</p>	
<p>2. 要介護1及び2の方であっても、やむを得ない事情により当施設以外での生活が著しく困難であると認められる場合の入居判定を行う。(特列入居の判定)</p> <p>→特列入居の実績はなかった。当施設の役割を自覚し、やむを得ない事情により特列入居に該当する方の支援ができるよう行政機関や地域包括支援センター等と密な連携に努める。</p>	
【年間活動状況】	
月	具体的活動内容
4月	対象者なし
5月	申込者1名判定。結果：判定可 1名、判定否 0名、保留 0名
6月	申込者4名判定。結果：判定可 4名、判定否 0名、保留 0名
7月	申込者2名判定。結果：判定可 2名、判定否 0名、保留 0名
8月	対象者なし
9月	申込者3名判定。結果：判定可 3名、判定否 0名、保留 0名
10月	申込者3名判定。結果：判定可 3名、判定否 0名、保留 0名
11月	対象者なし
12月	対象者なし
1月	申込者2名判定。結果：判定可 2名、判定否 0名、保留 0名
2月	対象者なし
3月	申込者4名判定。結果：判定可 4名、判定否 0名、保留 0名

褥瘡予防対策・排泄委員会

【活動目標の評価】

1. 褥瘡発生の予防対策や利用者個々に適した排泄ケアが行えるよう多職種で検討します。
→褥瘡計画書を3ヶ月毎に作成し、事前カンファレンス時に多職種と評価・検討を行った。また、褥瘡予防や改善案についてウォーキングカンファレンス等で連携しながら取り組み、ポジショニングによる除圧の周知が図れるようにした。排泄に関しては、使用オムツの製品が変わったが評価・見直しを行い、個々に適した排泄ケアを検討した。
2. 質の高いサービスを提供する為に、勉強会や研修会を企画し、職員の知識・技術の向上に努めます。
→コロナ禍にあり外部から講師を招くことはできなかったが、「清潔保持」の動画視聴する事で意識付けを行った。また、新人職員には改めて実践しながら指導を行い(OJT)、技術の向上を図った。「ポジショニング」に関しては機能訓練指導員から助言を受けながら実践した。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回 研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動目標の確認と共有 ・第1回研修打ち合わせ ・排泄ケアのアセスメントについて ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修 「清潔保持・陰部洗浄について」 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修の振り返り ・ウォーキングカンファレンス打ち合わせ ・入居者のオムツパットの選定確認 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンス ・入居者のオムツパットの選定確認 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンスの振り返り ・第2回研修の打ち合せ ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研修 「ポジショニングの方法」 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・半年の振り返り
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研修の振り返り ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンス打ち合わせ ・オムツパットの再確認 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンス ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンスの振り返り ・1年間の振り返り ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の振り返りから課題・提示・話し合い ・次年度の計画作成 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の計画作成の確認 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認

栄養管理委員会

【活動目標の評価】

1. 食事サービスの実施状況を把握し、改善事項の抽出や対策を多職種で検討することで食生活の質の向上を図ります。また、各種イベント食の企画・開催を行い入居者への食の楽しみを提供します。

→嗜好調査、検食の見直しを実施し、調査結果や検食の内容を献立やメニューへ反映することができた。今後もバラエティに富んだ食事を提供し、食事に楽しみを持ってもらうためにも、調査内容や方法の見直しを行い、入居者の世代や時代背景を考慮した食事提供をしていきたい。また、季節毎の行事食や毎年のイベントの企画・開催を多職種で協力して実施することができた。行事食やイベント食の企画を検討していき、入居者が楽しんでいただけるよう取り組んでいきたい。

2. 施設内における食中毒の発生及びまん延を予防します。

→厨房内の冷蔵冷凍庫や食品庫の整理整頓、賞味期限の管理を定期的に行い、食中毒の予防に努めることができた。

ユニットのキッチン周りについては、マニュアルに沿った清掃が実施できておらず、清掃が不十分な箇所もみられた。今後は、感染対策委員会と連携し、マニュアルの活用方法や啓蒙活動を行い、食中毒予防に努めていきたい。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回 研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	・活動目標の確認と共有 ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出 ・お花見御膳
5月	・研修会打合せ（食中毒予防） ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・端午の節句料理
6月	・研修会の実施（食中毒予防） ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・紫陽花御膳
7月	・研修会打合せ（とろみ剤） ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・七夕料理
8月	・研修会の実施（とろみ剤） ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・お盆料理
9月	・嗜好調査の実施（9月下旬～10月上旬） ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・敬老のお祝い料理
10月	・嗜好調査の実施（9月下旬～10月上旬） ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・紅葉御膳
11月	・嗜好調査の結果報告 ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・霜月御前
12月	・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・クリスマス料理 大晦日
1月	・1年間の活動の振り返り ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・お正月料理
2月	・次年度の計画作成 ・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・節分料理
3月	・食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 ・桃の節句料理

感染対策・環境美化委員会

【活動目標の評価】

1. 感染症の基礎知識を習得するため、施設内研修の実施と感染症予防の基本である「手洗い」の徹底を図り、日常から感染症予防に取り組みます。
 - ・今年度もコロナ禍のため、職員合同での実践の研修はできなかったが、簡易陰圧室を使用して、ゾーニングデモを行い、コロナ発生時のシミュレーションを行った。実際に見ることで問題点や疑問点などもわかりやすくイメージしやすかったとの意見も聞かれた。
 - また、平常時からの感染対策の徹底も再確認し、職員の意識向上ができた。
 - ・防護服の着脱についても、実践を行い、防護服着用での業務の難しさなども体感することができた。
2. 感染症週報にて最新情報を収集・把握していき、発生時には迅速・適切な対応がとれる体制を整えます。
 - ・感染症週報の他、ニュースや新聞などの情報にも注意し、感染状況によりクリニックと連携し対応を検討するなど行ってきた。職員の感染予防対策のための対応は継続して行い、面会については感染状況を見ながら一部解除にするなどその都度検討を行い、感染予防に努めている。
 - ・職員の協力により感染症予防対策の周知・徹底が行えており、例年流行するインフルエンザ・ノロウイルスも現在までに感染者ゼロを維持している。
3. 感染症発生時に必要な物品の把握・管理を行い、多職種で情報共有し迅速な対応に努めます。
 - ・物品の保管場所を整備し、必要時にはすぐに準備できるよう周知を図った。各ユニット、感染委員会メンバーを中心に、物品の管理・補充などを定期的に行っている。
4. 環境整備を効率的に行う方法を検討します。
 - ・エアコン・換気扇は、季節ごとにフィルター清掃を行い、使用することができた。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	・活動目標と内容の確認 ・感染防止対策マニュアルの確認と見直し 感染症発生時フローチャート作成
5月	・第1回委員会研修打ち合わせ ・エアコン清掃（夏季）
6月	・第1回委員会研修（食中毒予防・標準予防策・手洗いチェッカー） ・ベランダ・窓清掃（夏の大清掃）打合せ
7月	・第1回委員会研修振り返り 反省
8月	・第2回委員会研修の実践（各フロアでの吐物処理の実践、物品確認） ・エアコン清掃（秋）打合せ
9月	・エアコン清掃（秋） ・半年間の振り返り ・第2回委員会研修実践の振り返り
10月	・第3回委員会研修の打ち合わせ ・加湿器準備、取り扱い調査
11月	・第3回委員会研修（感染対策、吐物処理の実践） ・年末大清掃の打合せ
12月	・第3回委員会研修振り返り 反省 ・年末大清掃
1月	・1年間の振り返り、反省
2月	・次年度事業計画作成
3月	・次年度事業計画作成 ・事業報告書作成

医療的ケア推進委員会

【活動目標の評価】

1. 経管栄養・喀痰吸引業務計画書に基づき、入居者一人ひとりの状態に応じて、安全かつ適正に実施できるようにします。

→喀痰吸引の対象となる入居者は常時 1～2 名と少なく、吸引をする機会は限られてはいたが、介護福祉士認定特定業務従事者9名が医療的ケア（喀痰吸引、胃瘻による経管栄養注入）を実施し、事故やアクシデントもなく経過できている。今後も、安全かつ適正に医療的ケアを実施する為、定期的に手技・手法の確認を行い技術及び知識の向上を図る必要がある。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回 研修：1 回

月	具体的活動内容	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 活動目標の確認と共有 手順書の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動内容の検討 医療的ケア対象入居者の状況報告
5月	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 喀痰吸引、経管栄養による急変時、事故発生時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
6月	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 介護福祉士ができる医療行為、出来ない医療行為を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
7月	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 研修打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
8月	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア研修 「経管栄養・喀痰吸引の基本知識の理解、急変・事故発生時の対応」 手順書の再確認 医療的ケア対象入居者の状況報告 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 半年の振り返り 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
10月	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
11月	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
12月	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
1月	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の振り返り 喀痰吸引、経管栄養の手技確認、手法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
2月	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の振り返りの問題抽出と対策の検討 次年度の計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告
3月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア対象入居者の状況報告

リスクマネジメント委員会

【活動目標の評価】

1. 事故防止及び身体拘束廃止等に関する指針・マニュアルを踏まえ、事故等の減少につなげるために、利用者個々の状況に合わせた対応を職員間で共有していきます。
→事故・アクシデント・ヒヤリハットと項目を分け、発生時の分析や要因について検討を行い、入居者に合ったケアの見直しを行ってきたが、具体的な対策が足らず、同じ事故を引き起こす事もみられた。また対策への意識が時間経過と共に低下していくことで事故の再発がみられた。ヒヤリハットに関しては、委員会を中心に件数を出していくことで出すことへの意識付けが出来た。今後も小さなヒヤリハットに目を向け事故に繋がる前への危険予知の意識を高めていく。
2. 施設全体の事故防止や身体拘束廃止への意識向上を図るため、現場の実情に即した研修会を企画・開催し、安全な日常の支援に反映できるように多職種で評価し改善を図ります。
→新型コロナウイルス感染予防のため、集合研修は中止し、資料の配布にてレポート作成を行い、各ユニットでの気付きや日常的なケアの振り返りを行った。入居者の状態に合わせ気付きなどの意見も聞かれた。
3. 火災・風水害などを想定した訓練の実施や、防災用品及び備品の維持管理、職員に対し防災意識向上のための啓発活動を行います。
→「洪水災害避難計画」の作成を行い、避難場所の確認や避難手段、備蓄用品について卓上訓練を実施。具体的に説明を行い共有することができた。
4. 災害発生時にサービスを安定的に提供するために、事業継続計画（BCP）を策定し迅速に対応できるようイメージした訓練を行います。
→今年は2回の防災訓練を計画し、1回目は夜間想定火災発生に対する避難訓練、2回目は火災発生時の通報訓練と誘導や消火訓練を実施、計2回の防災訓練を行った。消火器の使用方法や設置場所の確認も同時に行い災害対策へ備え意識を高める事ができた。
BCP策定の一環として「洪水時の避難確保計画」を作成した。今後、感染症・地震・風水害の3種類に分類し、委員会を中心に作成を行っていく。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容		
4月	・活動計画の確認、共有	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討
5月	・事故防止指針・マニュアル及び連絡体制の見直し、整備	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討
6月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・研修内容打ち合わせ
7月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・第1回リスクマネジメント及び身体拘束に関する研修会開催
8月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	
9月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・総合防災訓練
10月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・身体拘束及び苦情の状況確認
11月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・研修内容打ち合わせ
12月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・第2回リスクマネジメント及び身体拘束に関する研修会開催
1月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・1年間の活動の振り返り
2月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・次年度事業計画作成
3月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討	・今年度の反省
	・部署訪問（事故・身体拘束防止検討）		・総合防災訓練

行事委員会

【活動目標の評価】

- ・入居者の生きがいづくりや身体機能の維持につながるよう、四季折々の行事・活動や設えの充実を図ります。

→新型コロナウイルス感染予防のため、大掛かりな催し物は自粛しフロアでの活動に変更し実施した。催し物の際は設えに工夫を行い、プロジェクターを使用するなど少しでも季節感を感じられる活動の提案を積極的に行ったことで、入居者は雰囲気を感じながら楽しむ事ができ参加率も高かった。

- ・施設での取り組みや活動についてホームページを中心に掲載し、施設と閲覧者間の情報共有、コミュニケーションの向上、活動への参加促進を図ります。

→活動の写真をご家族に郵送したり、様子について電話連絡を行う事でご家族へ日頃の様子を伝え安心して頂くことができた。また、ホームページへの掲載については毎月更新を行い、催し物や日常風景の様子、施設内での取り組みなどを定期的に更新する事ができた。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

月	具体的活動内容
4月	・行事食（お花見弁当） ・次月行事企画
5月	・行事食（端午の節句料理）・行事企画（夕涼み会） ・ユニット行事（おやつ作り）
6月	・行事食（紫陽花弁当） ・行事打ち合わせ（夕涼み会）
7月	・行事食（七夕料理） ・行事（夕涼み会）
8月	・行事食（お盆料理） ・次月行事企画 ・かき氷の日
9月	・行事食（敬老のお祝い料理）・行事（敬老会）
10月	・行事食（駅弁の旅） ・行事企画（クリスマス会）
11月	・行事食（紅葉弁当） ・行事企画（餅つき） ・ユニット行事（おやつ作り）・行事打ち合わせ（クリスマス会）
12月	・行事食（クリスマス料理） ・行事（クリスマス会）
1月	・行事食（お正月料理） ・1年間の振り返り
2月	・行事食（節分料理） ・活動計画内容 確認
3月	・行事食（桃の節句料理）

(6) 研修会

① 施設内研修

開催日	研修内容	講師
5月	褥瘡予防 (清潔保持・陰部洗浄) 陰部洗浄の動画視聴後、手技確認及び感想を提出	褥瘡予防対策・排泄委員会
6月	感染予防対策 (ガウンの着脱、清潔エリアと不潔エリアの把握) 感想等をレポートにて提出	感染対策・環境美化委員会
6月	食中毒研修 (食中毒の基礎知識、予防に対するの注意点の確認、 正しい手洗いの実践) 食中毒についての資料、手洗いの実践でのレポート提出	栄養管理委員会
7月	リスクマネジメント 身体拘束 配布された資料を確認しレポート提出	リスクマネジメント委員会
8月	トロミ剤、熱中症予防について (使用目的・量・方法、対象者の特徴、OS1試飲)	栄養管理委員会
9月	褥瘡予防 (ポジショニング) 配布された資料を確認しレポートを提出	褥瘡予防対策・排泄委員会
11月	感染 (吐物処理、蔓延防止対策) 吐物処理、防護服の着脱について(動画)穴埋め形式 問題提出	感染対策・環境美化委員会
12月	リスクマネジメント (危険予測の必要性、高齢者に潜むリスクの理解) 「介護現場のリスクマネジメントは」の資料を読ん でレポートを提出	リスクマネジメント委員会

※新型コロナウイルス感染予防のため、集合研修を中止し資料配布及びレポート提出、または少人数単位で複数回実施へ変更とした。

② 施設外研修

開催日	研修の名称	研修の内容	参加職種
6月23日(水) 6月24日(木)	問題解決能力スキルアップ研修	自ら問題を見つけ「あるべき姿」を意識して目標を設定し、解決策を実行するため、問題点の整理や分析、優先順位づけなど、問題を解決していくためのプロセスと方法論について実践的に学ぶ	生活相談員 介護職

7月 3日 (土) 7月 4日 (日) 7月17日 (土) 7月18日 (日)	介護福祉士実習指導者講習会	実習指導の倫理と実践 スーパービジョンの意義と活用及び 学生理解 実習指導の方法と展開 実習指導における課題への対応及び 実習指導に対する期待	介護職
7月13日 (火)	チーム力を高めるコミュニケーション研修 チームリーダー編	チームリーダーの役割を認識し、職場でのコミュニケーションの必要性や育成・指導場面での適切な対応について学ぶ。	介護職
7月14日 (水)	認知症の基本理解研修	認知症を正しく理解することで適切な介護や支援につながる一助となる。利用者や利用者家族によりそえるよう、多岐にわたる症状とその要因に関する基本的な知識を学ぶ	介護職
7月28日 (水) 7月29日 (木) 8月 2日 (月) 8月 5日 (木) 8月 9日 (月) 8月10日 (火) 8月17日 (火) 8月18日 (水)	宮崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、特定分野の実習における効果的な実習指導を行うために必要な知識、技術を習得させ、看護教育の内容の充実向上を図ることを目的とする。	看護職
8月 1日 (日)	医療的ケア教員講習会	実務者研修の講師を養成することを目的とする。また、看護師としてスキルアップを目指す。	看護職
8月24日 (火)	職務を通じて後輩を育てるOJT研修 (人材育成指導担当者)	OJTについての基本的な考え方や推進方法を理解し、組織で人材育成を行う意義を学ぶ。	介護職
9月16日 (木) 9月17日 (金)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職
9月22日 (水)	ミーティングのすすめ方研修	職員間での会議など様々な話し合いが必要な多様な関係者のコミュニケーションを促し、意見を引き出し、まとめて納得を基にした結論に導く合意形成のスキル	介護支援専門員
10月 6日 (水) 10月 7日 (木)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度の構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職
11月 9日 (火)	施設従業者向け高齢者虐待防止研修	高齢者虐待の問題に関連する知識の習得及び高齢者虐待の防止策や対応策を学ぶことにより、高齢者の権利擁護に資することを目的とする	施設長
11月 4日 (木) 11月 5日 (金)	ユニットリーダー研修	ユニットリーダーとして習得すべき知識及び技術研修の概要を取得する。	介護職
11月10日 (水) 11月11日 (木)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 初任者研修コース1	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職

11月25日(木)	チームビルディングのためのリーダーシップ研修	リーダーシップの役割と必要性 リーダーシップ発揮のポイント リーダーに必要なスキルと職場活性化のためにできること	介護支援専門員
12月21日(火) 12月22日(水)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 過程 チームリーダーコース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職
12月23日(木) 12月24日(金)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 課程 管理職員コース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護支援専門員
2月 8日(火)	BCP(事業継続計画)研修	災害発生後の業務継続に漫然を期するため、BCP策定の視点について学ぶ。	介護職
2月18日(金)	記録技術研修(高齢者)	利用者に関する出来事を正確に記し、一貫した情報共有ができる様、記録の意義と目的を理解し、記録のポイントを学ぶ	介護職

3. ケアライフ かなえ

(1) 令和3年度重点目標の達成状況

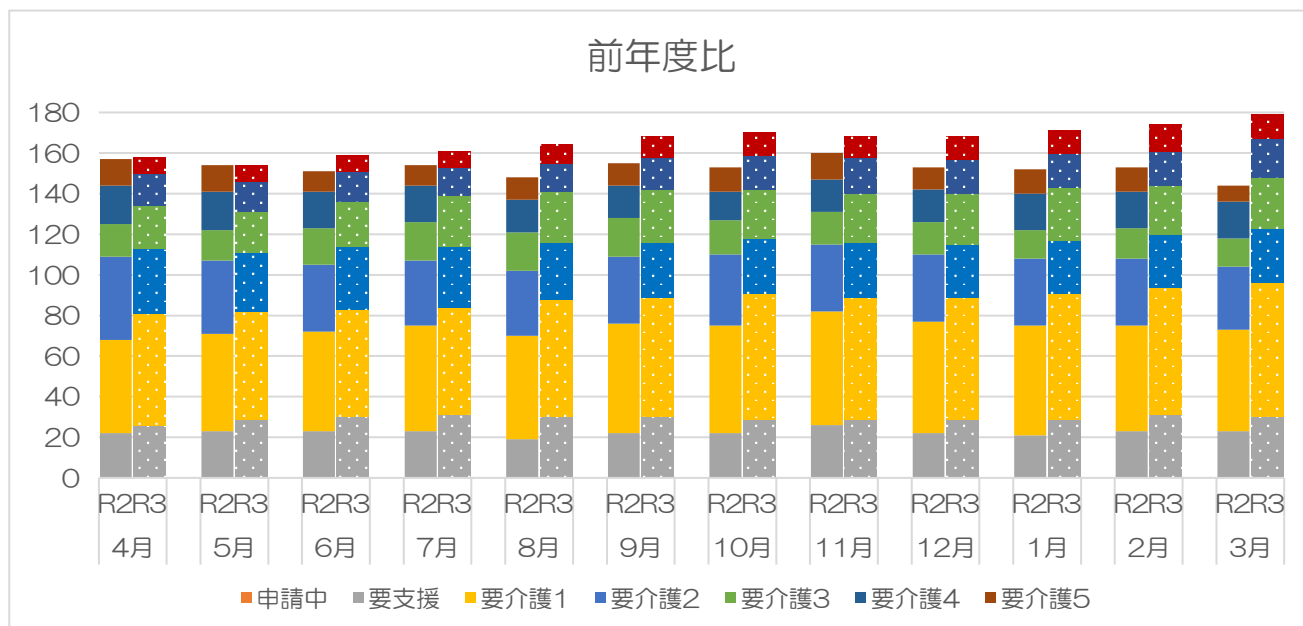
超高齢化社会に求められる介護サービスやニーズを把握し、地域や行政、医療、関係機関との連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に参加し、専門職として質の高い自立支援に向けたケアマネジメントを確保します。

→介護を必要とする高齢者や障がい者、特定疾患を持った利用者が地域でこれまで営んできた生活を継続する事が出来るよう、利用者・家族の意向を尊重し、自立に向けた支援の検討・調整を行ってきた。合わせて、行政及び地域包括支援センターをはじめとする関係機関や、各サービス事業所等との連携も密に行い、地域で求められているサービスや課題の把握に努めてきた。終息が見えないコロナ禍にて、研修等への参加が中止やZOOM等のオンラインで行われるようになったが、情報収集や医療、多職種との連携は継続し行っている。新型コロナウイルス感染対策にて、訪問、会議等の自粛を余儀なくされてはいるが、今後も状況に併せ、徹底して質の高いケアマネジメントを行っていきたい。

(2) 事業実績

①登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援	26	29	30	31	30	30	29	29	29	29	31	30
要介護1	55	53	53	53	58	59	62	60	60	62	63	66
要介護2	32	29	31	30	28	27	27	27	26	26	26	27
要介護3	21	20	22	25	25	26	24	24	25	26	24	25
要介護4	16	15	15	14	14	16	17	18	17	17	17	19
要介護5	8	8	8	8	9	10	11	10	11	11	13	12
合計	158	154	159	161	164	168	170	168	168	171	174	179
ケアマネジャー 在籍数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5



4. 住宅型有料老人ホームよりそい

(1) 令和3年度重点目標の達成状況

住み慣れた地域で暮らすことができる「地域包括ケア」実現を目指し、個々のニーズに対応でき、特に医療を必要とする方々が安心して生活していただける居住施設とする。また、併設の事業所サービスを併用することで、入居者情報の共有を図り、新しい取り組みに挑戦することができ、高稼働率の維持・継続を図る。

→住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、入居希望のご家族に丁寧に説明を行い、安心して申し込んで頂き、入居に繋げられるようにした。事業所内で、情報の共有をして、稼働率の維持・継続に引き続き努めていく。

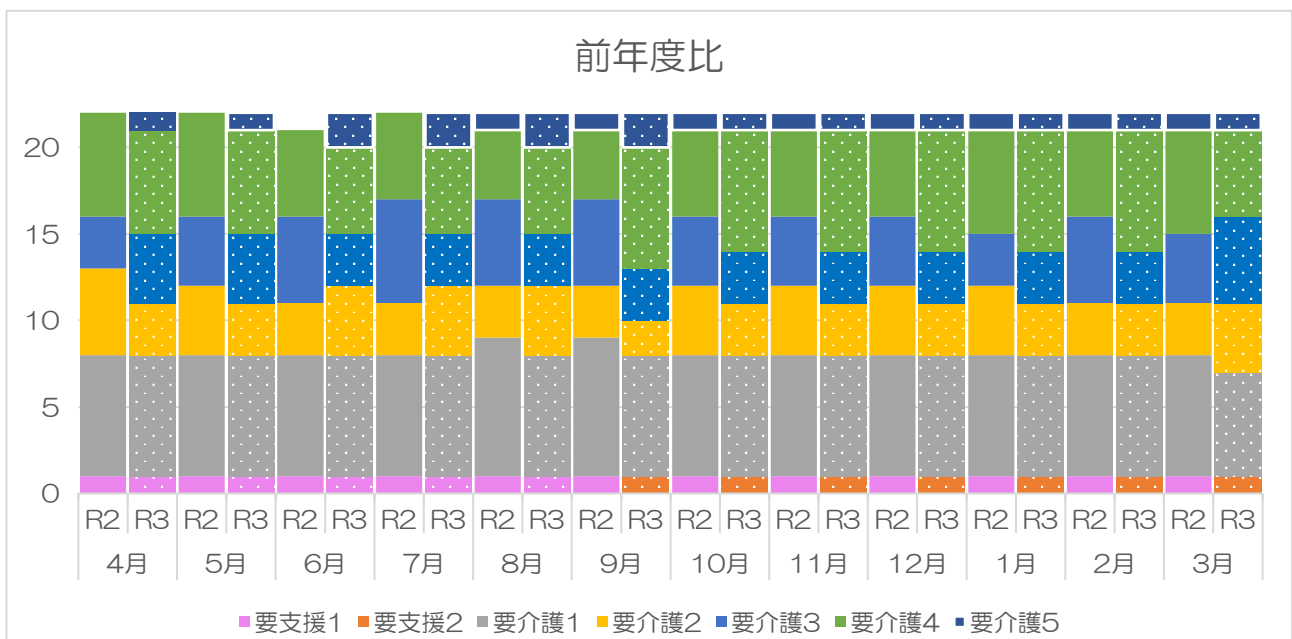
【サービスの内容】

- | | |
|-------------|------------------|
| ① 個別ケアの実践 | ⑥ 福祉用具の活用 |
| ② 食事介助 | ⑦ 秘密保持と個人情報保護 |
| ③ 排泄介助 | ⑧ 身体拘束廃止、高齢者虐待防止 |
| ④ 服薬管理・服薬介助 | ⑨ 地域との連携 |
| ⑤ 健康管理 | ⑩ 資質及び専門性の向上 |

(2) 事業実績

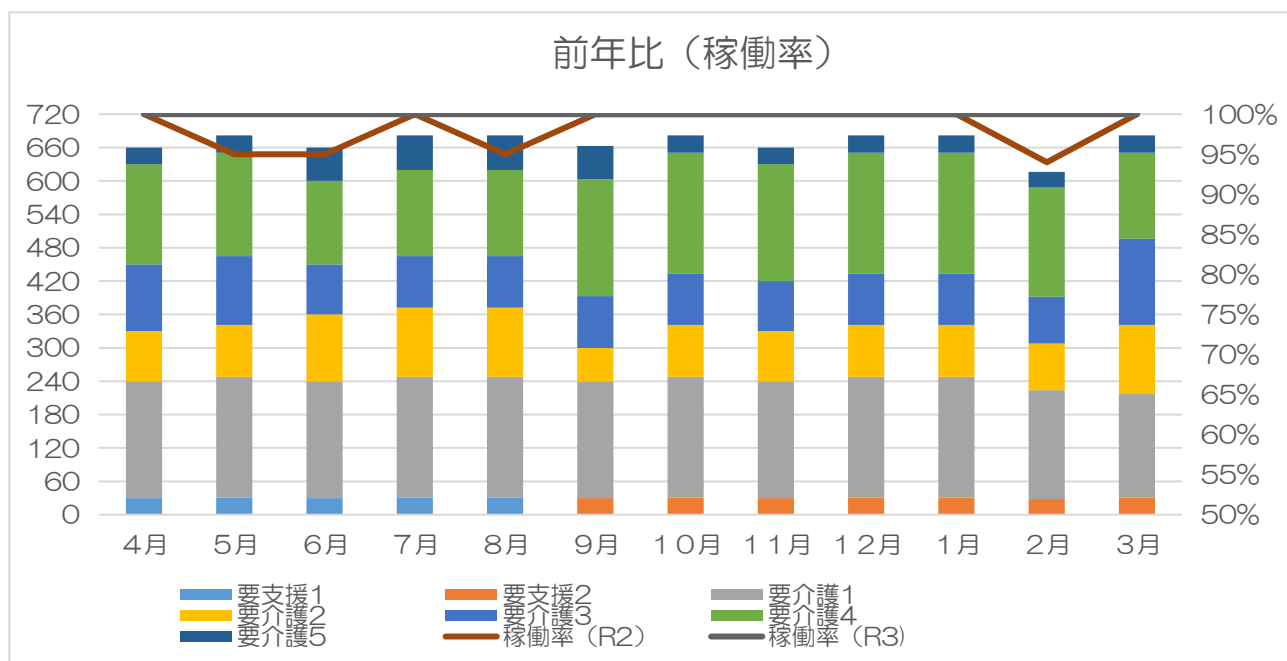
【利用実人数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
要介護1	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6
要介護2	3	3	4	3	4	2	3	3	3	3	3	4
要介護3	4	4	3	6	3	3	3	3	3	3	3	5
要介護4	6	6	5	5	5	7	7	7	7	7	7	5
要介護5	1	1	2	0	2	2	1	1	1	1	1	1
合計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22



【入居延べ日数及び稼働率】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	30	31	30	31	31	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	30	31	30	31	31	28	31
要介護1	210	217	210	217	217	210	217	210	217	217	196	186
要介護2	90	93	120	124	124	60	93	90	93	93	84	124
要介護3	120	124	90	93	93	93	93	90	93	93	84	155
要介護4	180	186	150	155	155	210	217	210	217	217	196	155
要介護5	30	31	60	62	62	60	31	30	31	31	28	31
合計	660	682	660	682	682	663	682	660	682	682	616	682
稼働率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



① 施設内研修・委員会

月	具体的活動内容
4月	・感染対策委員会
5月	・排泄調査について
6月	・食中毒について
7月	・感染対策委員会
8月	・看取り研修
9月	・リスクマネジメントについて
10月	・認知症研修
11月	・排泄ケアについて
12月	・高齢者虐待について
1月	・嘔吐物処理の実践
2月	・褥瘡予防について
3月	・誤薬について

② 施設外研修

開催日	研修の名称	研修の内容	参加職種
7月 7日 (水)	リスクマネジメント講習	事故防止のための具体的活動や事故対応のノウハウを学び危機管理に強い組織を目指すことを目的とする。	管理者
7月 19日 (月)	身体拘束と虐待について学ぶ	虐待についての基本的な知識を抑え実践に生かす。	介護職
9月 11日 (火)	エンディングノートアドバイザー養成講座	アドバイザーの役割について学ぶ	介護職
10月19日 (木) 10月20日 (金)	職場研修担当者養成講座	職場研修を実施するための体制作りや考え方、方法論を学ぶ	介護職
10月24日 (火)	介護職員による医療的ケア（今だから知っておきたい感染症の予防策）	感染症に関する正しい知識を学び、感染症発生の初重対応に即して被害を最小限に食い止めるかを目的とする。	介護職
11月 4日 (木) 11月 5日 (金)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅コース	福祉職員に共通に求められる能力を段階的、体系的に習得することを目的とする。	介護職
1月 6日 (木) 1月 7日 (金)	人材確保・育成につなげるキャリアパス構築と活用方法の実施	労働環境の整備、職員の資質向上のためのキャリアアップの仕組み作りを目的とする。	管理者
2月 8日 (火)	業務継続計画（BCP）研修	災害発生時の業務の優先順位や災害対応に関するルール等の明確化などを目的とする。	管理者
3月23日～28日 で2時間視聴	宮崎市エンディングノートアドバイザーフォローアップ研修	「私ノート」の活用とDNARの注意点などを学ぶ。	管理者

5. 訪問介護よりそい

(1) 令和3年度重点目標の達成状況

利用者の人格、人権を尊重し、本人が持つ力や意欲を引き出せるように様々なニーズに対応したサービスを提供します。利用者同士のコミュニケーションの場としての機能の充実を図り、日常生活の向上に努めていきます。元気に楽しく過ごしている、という実感が持てるようサポートし、並びに利用者、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

→自宅訪問時に本人の意欲、動作の確認、サービス提供の際の情報の共有をし、その方に合ったケアを行うことで、日々の暮らしが楽しめるように支援が行っている。ご利用者様の今の生活を変えることなく支えていけるよう、サービスの提供を行い、担当ケアマネ、ご家族と話し合いながら支援していくことが出来ている。

【サービスの内容】

① 身体介護

- ・入浴及び清拭介助
- ・食事介助
- ・排泄介助
- ・整容
- ・更衣介助
- ・その他必要な身体介助

② 生活援助

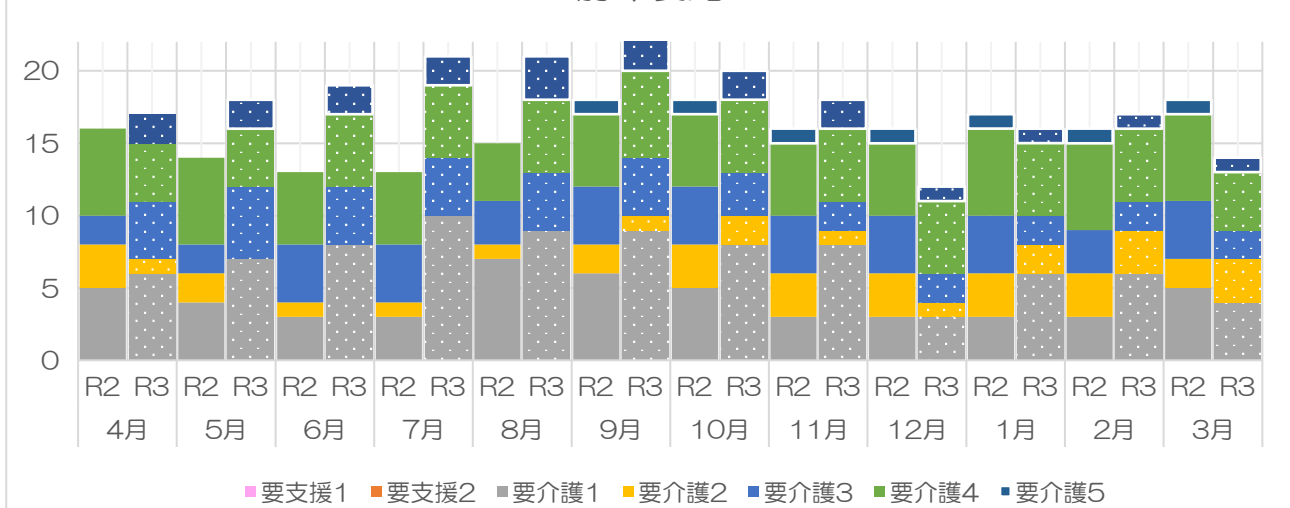
- ・一般的な調理
- ・衣類等の洗濯・補修
- ・掃除・整理整頓
- ・その他必要な家事・相談等

(2) 事業実績

【利用人数】

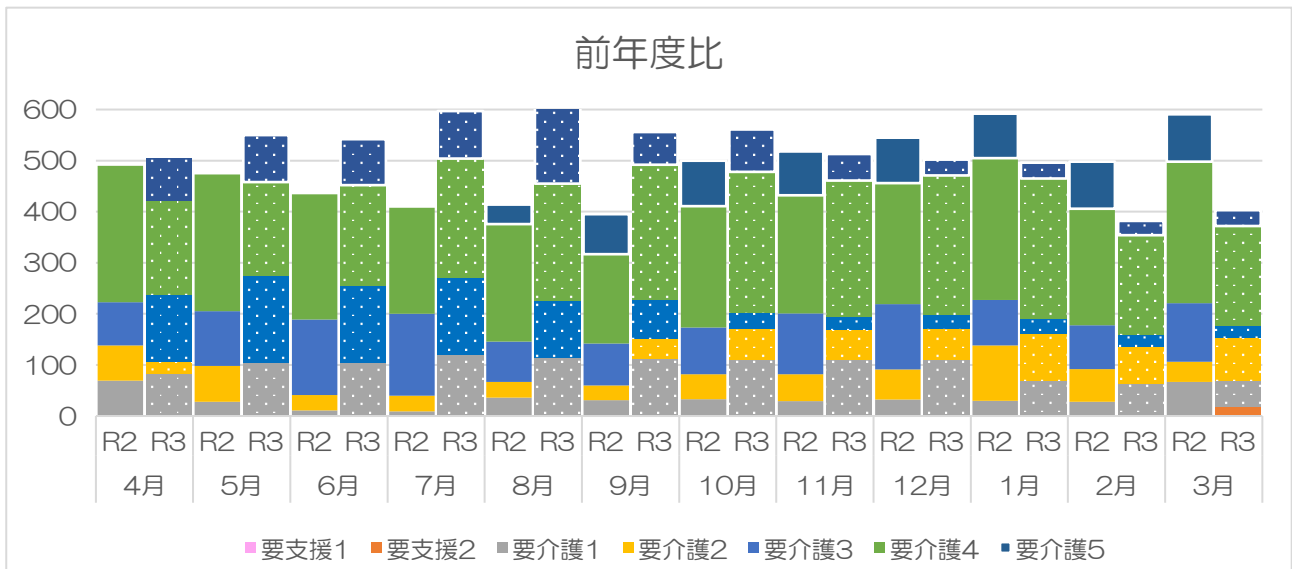
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	5	4	3	3	7	6	5	3	3	3	3	5
要介護2	3	2	1	1	1	2	3	3	3	3	3	2
要介護3	2	2	4	4	3	4	4	4	4	4	3	4
要介護4	6	6	5	5	4	5	5	5	5	6	6	6
要介護5	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
合計	16	14	13	13	15	18	18	16	16	17	16	18

前年度比



【出動回数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
要介護1	84	104	105	121	115	112	110	110	110	69	64	52
要介護2	22	0	0	0	0	39	62	60	62	93	72	84
要介護3	132	171	150	150	112	77	31	25	26	29	24	24
要介護4	184	183	197	233	228	264	275	266	273	274	194	194
要介護5	82	92	90	93	150	64	83	52	31	31	28	31
合計	504	550	542	597	605	556	561	513	502	496	382	403



6. 通所介護よりそい

(1) 令和3年度重点目標の達成状況

利用者の人格、人権を尊重し、本人が持つ力や意欲を引き出せるように様々なニーズに対応したサービスを提供します。利用者同士のコミュニケーションの場としての機能の充実を図り、レクリエーションや機能訓練その他日常生活の向上に努めていきます。元気に楽しく過ごしている、という実感が持てるようサポートし、並びに利用者、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

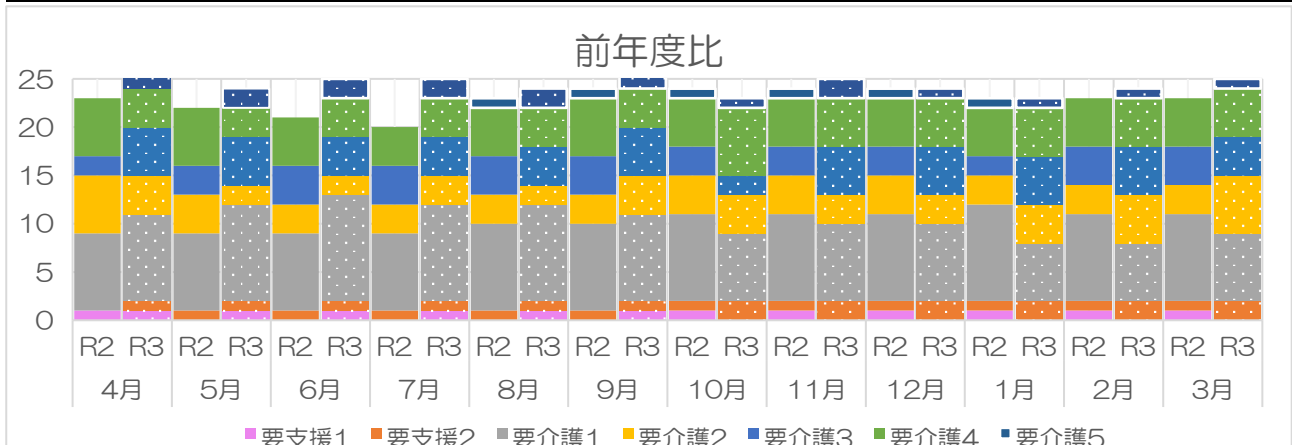
→【サービスの内容】

- ① 健康管理～有料の職員及びご家族からの報告やご本人の様子などから、異常の早期発見とその後の対応・連携に努め、健全な生活が送れるよう支援した。
- ② 入浴～安心安全に入浴ができ気分転換につながるよう、環境整備と雰囲気作りを行った。令和4年2月に、個別浴室を整備し、サービス提供に活用している。今までより衛生的かつリラックスして入浴できるようになった。
- ③ 排泄～羞恥心を傷つけないよう配慮し、ご本人の体調管理・健康管理へ繋がるように職員間の連携を図った。
- ④ 食事・おやつ～安全に楽しく食事ができるような雰囲気作りや季節に応じた食事の提案、体調管理を考慮し、職員間での連携を図った。
- ⑤ 個別機能訓練～個別機能訓練として、より個別的に向けての機能訓練を実施した。集団訓練を含めての体力維持・増進に努めた。
- ⑥ レクリエーション～季節に応じた活動を提供し楽しみながら他者との交流ができ、健康的に体を動かせる機会を作った。
- ⑦ 送迎～安全に送迎ができるよう、職員の日頃からの体調管理と安全運転に努め、有料職員やご家族からの情報収集ができる機会をつくり、ご本人とご家族の支援に活かした。

(2) 事業実績

【登録利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2
要介護1	9	10	11	10	10	9	7	8	8	6	6	7
要介護2	4	2	2	3	2	4	4	3	3	4	5	6
要介護3	5	5	4	4	4	5	2	5	5	5	5	4
要介護4	4	3	4	4	4	4	7	5	5	5	5	5
要介護5	1	2	5	2	2	2	1	2	1	1	1	1
合計	25	24	25	25	24	26	24	25	24	23	24	25



利用延べ人数及び稼働率（定員20名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	4	4	5	4	5	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	9	9	0	0	9	13	7	5	9	12	12	13
要介護1	169	177	192	193	141	144	142	143	142	123	124	135
要介護2	77	51	51	52	77	57	59	60	58	72	85	121
要介護3	99	128	104	108	68	81	78	121	125	119	120	106
要介護4	58	56	82	84	90	110	126	99	95	92	92	96
要介護5	28	31	30	32	56	28	44	17	17	16	16	17
合計	444	456	464	473	446	433	456	445	446	434	449	488
稼働率	85%	88%	89%	88%	86%	83%	88%	86%	89%	90%	94%	90%

